

第1図 東京における11月3日の天気 (1886—1950年, 65カ年)

第3表 1921—1950年(後期)の11月3日  
前後の東京天気表

天気	月日	10月	11月									
		29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8
○		7	5	6	5	5	10	5	5	5	8	10
①		4	7	8	4	10	11	5	9	6	6	3
◎		3	1	3	3	2	3	6	3	5	3	5
●		16	17	13	18	13	6	14	13	14	13	12
晴天(○+①)		11	12	14	9	15	21	10	14	11	14	13
晴天率(%)		37	40	47	30	50	70	33	47	37	47	43
雨天率(%)		53	57	43	60	43	20	47	43	47	43	40

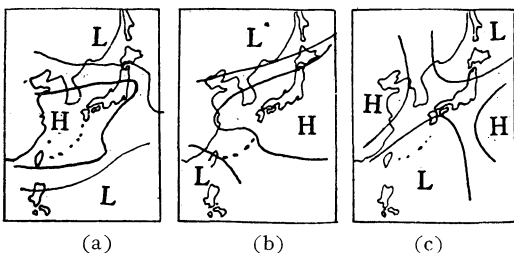
また第1図について各天気の累年の頻度を調べてみると、統計的には明瞭でないが、年数の終りに8のつく年例えば1948は毎年雨となり、6のつく年は晴天である。この事は気候の10年週期の存在と関係しているのかもしれない。なおこの場合雨とは日雨量0.0ミリ以上であるから、雨天というよりは天気が悪いと云うべきであろう。

3. 天気図型分類

東京における11月3日の天気(1907—1950年, 44カ年)と気圧分布との関係を知るため縮刷極東天気図を分類したのが第4表である。

第4表 11月3日の天気図型頻度回数  
(1907—1950, 44カ年)

天気	天気図型	移動性高気圧の前面型	同後面型	帯状高気圧型	流れ出し型	北方移動性高気圧型	北高気圧型	トラフ型	計
○		10	2	1	0	0	0	0	13
①		10	2	0	0	1	1	0	14
◎		1	2	0	0	1	0	0	4
●		1	4	0	1	0	2	5	13



第4図 天気図型

(a)移動性高気圧の前面型, (b)後面型, (c)トラフ型

ここで天気図型は高橋博士の天気図型分類〔(1), 1955〕に従い、特に移動性高気圧の前面型、後面型、トラフ型を付け加えた。この3つの型を第2図に示す。

移動性高気圧の前面型、後面型とは東京が移動性高気圧の前面又は後面に入った状態で、トラフ型とは本邦がトラフに入った場合の型である。

第4表より東京が快晴または晴のときは移動性高気圧の前面型が大部分を占め、雨は移動性高気圧の後面型またはトラフ型であることが分る。

4. 結 論

以上のことより11月3日に東京では天気が良く、それが1921年以降著しいことが分った。

そして11月3日のシミュラリティーは東京地方が移動性高気圧に蔽われる結果発現することが分った。このことは第2報において、シノプティックの立場から本邦全体について調査した結果と一致することが分った。

終りに終始御指導を賜った長尾 隆教官に深謝すると共に種々有益な御援助を戴いた長友島田芳夫技官に感謝致します。

参 考 文 献

- (1) 高橋浩一郎, 1955: 動気候学, pp., 62~63, 65~69.
- (2) 伊藤亀雄, 1954: 雨の降らない日, 測候時報, 21, 292~295.

訂 正

Vol. 3, No. 5 の中で重要な誤があったので、下記の通り訂正致します。

頁	行	誤	正
アート	写真の2頁	中野原夫氏撮影	中野宗男氏撮影
161	左下8	5.0%	50%
162	第3図縦軸	発電及給電頻度	発電及終雷頻度
	〃	給電頻度	終雷頻度
	〃	発電頻度	発電頻度
167	左下3	第4図	第3図
	右下5	第1図	第3図
168	第2表中	12時15分	12時20分
	右7	$0.0899 \times 10^3$	$0.0899 \times 10^{-3}$
169	右下2	第5表	第6表
	第7表中	第8回記号	第8図記号
170	左15	飛揚番号別	飛揚番号別
	左16	犬吠沖渚の	犬吠崎渚の
	左23	第6表	第7表
	左下12	30km が前後	30km 前後
166~171		飛揚	飛揚